

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成31年4月4日 (2019.4.4)

【公開番号】特開2016-63545(P2016-63545A)

【公開日】平成28年4月25日 (2016.4.25)

【年通号数】公開・登録公報2016-025

【出願番号】特願2015-184528(P2015-184528)

【国際特許分類】

H 0 4 W 72/12 (2009.01)

H 0 4 W 28/14 (2009.01)

【F I】

H 0 4 W 72/12

H 0 4 W 28/14

【誤訳訂正書】

【提出日】平成31年2月8日 (2019.2.8)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 9】

ステップ 1 3 3 0 において、UE は、UE が使用することが可能であった SA に関連する現有の、または、残りのリソースの数量に基づいて、スケジューリング要求を送信するか、または、データに関連する BSR をトリガーするかどうかを決定する。好ましくは、UE は、データに関連する BSR をトリガーしない。あるいは、好ましくは、UE は、データに関連する BSR をトリガーする。しかし、UE は、基地局 (BS) に、トリガーされた BSR に関連するスケジューリング要求 (SR) を送信しない。任意の状況において、残りのリソースは、残りのすべてのバッファされたデータを運ぶのに十分なので、最終の UE 動作は SR を送信しない。トリガーされた BSR は SR をトリガーしてもよいので、その後、トリガーされた BSR を送信するための UL グラントを要求するために、トリガーされた SR を送信することはないということが予測される。一般的には、高優先データ到達、または、空状態から非空状態、または、ある別の特定の状況から利用可能なデータのために、BSR がトリガーされるとき、UE は、BSR によりトリガーされた SR を送信して、UL グラントを要求する必要がある、且つ、UE は、UL グラントを用いて、BSR を送信する。しかし、この特殊な状況では、何も発生しない。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 6】

ステップ 1 4 4 0 において、UE は、UE が使用することが可能であった SA に関連する残りのリソースの数量に基づいて、第二スケジューリング要求を送信するか、または、データに関連する BSR をトリガーするかを判断する。好ましくは、UE は、データに関連する BSR をトリガーしない。あるいは、好ましくは、UE は、データに関連する BSR をトリガーする。しかし、SA に関連する残りのリソースの数量はデータを収容できて、BSR 解除を生じるので、UE は、基地局に、トリガーされた BSR に関連する第二 S

Rを送信しない。任意の状況において、残りのリソースは、残りのすべてのバッファされたデータを運ぶのに十分なので、最終のUE動作はSRを送信しない。トリガーされたBSRはSRをトリガーしてもよいので、トリガーされたBSRを送信するためのULグラントを要求するために、トリガーされたSRを送信することはないということが予測される。一般的には、高優先データ到達、または、空状態から非空状態、または、ある別の特定の状況から利用可能なデータのために、BSRがトリガーされるとき、UEは、BSRによりトリガーされたSRを送信して、ULグラントを要求する必要がある、且つ、UEは、ULグラントを用いて、BSRを送信する。しかし、この特殊な状況では、何も発生しない。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0052

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0052】

ステップ1530において、UEは、データに関連するBSRをトリガーする。ステップ1535において、SAに関連する残りのリソースの数量はデータを収容できるので、UEはBSRをキャンセルする。ステップ1540において、UEは、第三タイミングで、残りのリソースによりデータを送信し、ここで、第三タイミングは第二タイミングより遅い。任意の状況において、残りのリソースは、残りのすべてのバッファされたデータを運ぶのに十分なので、最終のUE動作はSRを送信しない。トリガーされたBSRはSRをトリガーするので、たった今トリガーされたBSRを取り消すことが予測される。その後、もちろん、どのSRもトリガーしない。ステップ1530と1535を参照すると、BSRがトリガーされ、その後、取り消され、UEは、実際には、(たとえば、ここで、意図的に何もしないといったように)いずれかのBSRを送信するためのULグラントを要求するいかなるSRも送信しないであろうということが記述されている。一般的には、高優先データ到達、または、空状態から非空状態、または、ある別の特定の状況から利用可能なデータのために、BSRがトリガーされるとき、UEは、BSRによりトリガーされたSRを送信して、ULグラントを要求する必要がある、且つ、UEは、ULグラントを用いて、BSRを送信する。しかし、この特殊な状況では、何も発生しない。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0053

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0053】

好ましくは、UEは、UEが使用することが可能であったSAに関連する現有の、または、残りのリソースの数量に基づいて、第二スケジューリング要求を送信するか、または、データに関連するBSRをトリガーするかどうかを決定する。あるいは、または、追加として、好ましくは、UEは、データに関連するBSRをトリガーしない。別の方法として、あるいは、または、追加として、好ましくは、UEは、データに関連するBSRをトリガーする。しかし、SAに関連する残りのリソースの数量はデータを収容でき、BSR解除を生じるので、UEは、基地局に、トリガーされたBSRに関連する第二SRを送信しない。残りのリソースは、残りのすべてのバッファされたデータを運ぶのに十分なので、任意の状況において、最終のUE動作はSRを送信しない。トリガーされたBSRはSRをトリガーしてもよいので、トリガーされたBSRを送信するためのULグラントを要求するために、トリガーされたSRを送信することはないということが予測される。一般的には、高優先データ到達、または、空状態から非空状態、または、ある別の特定の状況

から利用可能なデータのために、B S R がトリガーされるとき、U E は、B S R によりトリガーされた S R を送信して、U L グラントを要求する必要がある、且つ、U E は、U L グラントを用いて、B S R を送信する。しかし、この特殊な状況では、何も発生しない。